

スピーチプライバシーシステム VSP-2：導入の心得

スピーチプライバシーシステムを導入すると、会話内容が聞き取りにくくなり、プライバシーや機密情報の漏洩防止や、集中作業の維持を手助けしてくれます。ここでは適切な効果を得るために知っていただきたいことを紹介します。

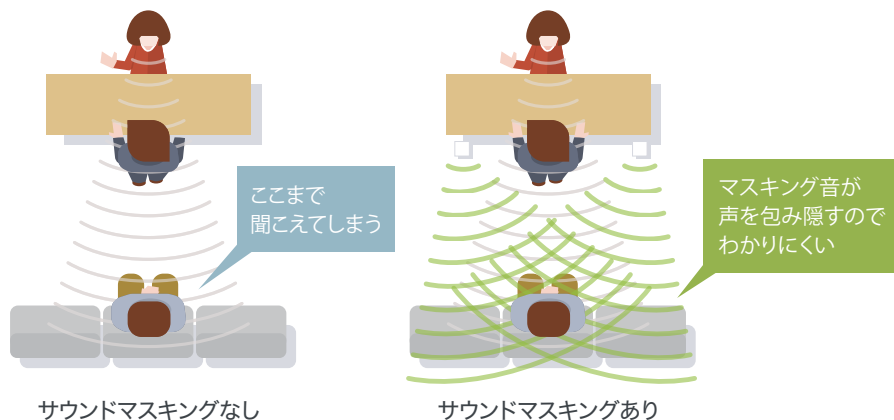
【導入の心得 その1】

音を消すのではなく、会話を「わかりづらく」する技術です

マスキング音と呼ばれる特殊な音が会話を包み隠し、第三者に「何かは話しているが、会話内容まではわからない」という状態を作り出すシステムです。ノイズキャンセリング^{※1}のように、音を消すわけではありません。

※1：ノイズキャンセリング

消したい音に別の音をぶつけることで音を消すという技術で、ヘッドホンなどに使われていますが、現時点では空間での実現が難しい技術です。



【導入の心得 その2】

スピーカーは「聞かれない人」に向けて設置します

会話内容を聞かれない側（廊下や隣の部屋）にスピーカーを設置して、音を出します。他人の会話内容に邪魔されずに仕事に集中したい場合は、集中したい方に向かって音を出します。

（詳しい設置例については、『VSP-CU2』取扱説明書内、設置シーンをご確認ください。）



【導入の心得 その3】

最初は不自然に感じても、徐々に音に慣れてきます

最初は違和感を感じるかもしれませんが、人間の耳は慣れます。^{※2} 効果を感じた音量に、段階的に上げることもオススメです。

例えば、「8」が理想の音量の場合・・・

- ・初日は「6」
- ・2日目は「7」
- ・3日目以降「8」にする

※2：聴覚における慣れ（habituation）

聴覚器官に特定の刺激が持続もしくは繰り返して提示されると、刺激に対する反応が次第に弱まり、ついには消失する現象。



【導入の心得 その4】

聞き耳を立てると、会話は聞こえやすくなります

例えば多くの人が会話をしている中でも、人は「聞こうと思えば」その内容を聞き取ることができます。^{※3} 話し手も聞き手も普段と同じように業務をしながら、その会話内容が頭に入ってくるかをご確認ください。

※3：カクテルパーティー効果

心理学者のコリン・チェリーが提唱した現象で、多くの人が話している環境下でも自分に興味のある話や自分の名前などを聞くことができる現象。



【導入の心得 その5】

マスキング音が不快と感じたら現場に合わせた「音調整」を！



本体のリアパネルのスイッチ（みどり囲い部分）を使い、音の調整を行います。

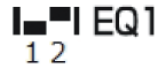
NORMAL：デフォルトのマスキング音です

EQ1：NORMAL に比べ、高音域のレベルを落とします

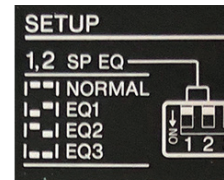
EQ2：NORMAL に比べ、低音域のレベルを落とします

音の印象から、スイッチを選定する

①マスキング音が耳に刺さるように聞こえる（高い音が耳障りに聞こえる）
→「EQ1」に設定します



②マスキング音に少し圧迫感を感じる（低い音が気持ち悪く感じる）
→「EQ2」に設定します



1と2のスイッチを下げることで、音の調整ができます。

スピーカーの配置から、スイッチを選定する

NORMAL



スピーカーを壁面に設置する場合

EQ1



スピーカーを天井面に設置する場合

EQ2



スピーカーを部屋のコーナー部分に設置する場合



スピーチプライバシーシステムに関して、お困りの事がありましたら下記連絡先へお電話ください。

お問い合わせ先
ヤマハ株式会社 コミュニケーション事業部
マーケティング & セールス部 国内営業 G
TEL：03-5488-6844 / FAX：03-5488-5099

ヤマハ 音環境

検索

<https://sound-solution.yamaha.com/>

ヤマハ株式会社